

しじゅうから



いきもの 
森  よほう

3月になると急に生き物たちが動き出す季節になります。2月までは彩りに欠けた景色でしたが、3月中頃になると足元には色とりどりの花が咲き出します。小鳥の森で3月中に咲き出す花の代表種を紹介しましょう。



皆さんは「スプリング・エフェメラル」という言葉を知っていますか？早春の短い時期に花を咲かせ、夏までに休眠してしまう植物のことをいいます。カタクリはその代表格の植物です。直訳すれば「春の儚きもの」転じて「春の妖精」と呼ばれています。その名の通り、薄紫色のとても可憐なお花ですが、花が咲くまでに7,8年もかかります。小鳥の森では3カ所に群



小鳥の森では全部で10種類以上のスマイレ類が見られます。スマイレは園内の至る所に咲いていて、目につきやすいため、手軽に観察できます。
(上：タチツボスマイレ、下：マキノスマイレ)

生地があります。一面がその花で埋め尽くされる様子は圧巻です。曇りの日は花が閉じていることが多いので、よく晴れた暖かい日に観察するのがおすすめです。



カタクリと同じ時期に咲いて森の中でもよく目立つショウジョウバカマ。ショウジョウは漢字で書くと「猩々」

と書きますが、お酒が好きで真っ赤な顔をしているサルのような姿をしている空想上の生き物で、紅紫色の花や、冬に赤くなる葉がそれに似ていること、葉の重なりが袴（はかま）を連想させることが名前の由来になっています。独特な見た目から春先には来園者の方々からもよく質問をされる種類のひとつです。

イベントあるよ

- カタクリガイド
カタクリ群生地まで小鳥の森ボランティアガイドが案内します。
期間：3月21日(土)～4月5日(日)
ただし、休館日をのぞく
時間：10時～14時
場所：小鳥の森ネイチャーセンター
対象：どなたでも
参加費：無料
申込：不要、ガイド人数により、対応できない場合もあります。

たからもの 森の宝物探し

小鳥の森で宝物（自然の中の生き物）を見つけることができたならオリジナル缶バッジをプレゼントしています。その日に見つける宝物が何かをネイチャーセンターで確認して、写真を撮ってレンジャーに見せるとミッションクリア！

今月の生き物はコレ

ヒヨドリ (ヒヨドリ科)



ヒヨドリといえば、スズメの次に身近な鳥といっても過言ではありません。「ヒーヨヒーヨ」と鳴くところからヒヨドリと名付けられました。しかしながら、実際は「ピー！！、ギー！！」などどけたたましく鳴く方が、耳なじみかもしれませんね。

もしヒヨドリのくちばしが黄色に染まっていたら、今の時期ツバキの花粉の可能性が高いです。ツバキはヒヨドリに蜜をあげる代わりに、受粉のお手伝いをしてもらいます。そういう花を鳥媒花(ちょうばいか)といいます。ヒヨドリは雑食ですが、とりわけ甘味好きで、花の蜜や花弁、果物、野菜の葉などを好んで食べます。そして、ほかの鳥が食べないような木の実も食べて種子を運び、植物の繁栄に貢献しています。

そんな風に一年中みられるヒヨドリですが、実は漂鳥(ひょうちょう)でもあります。10月下旬ごろ北海道から津軽海峡を超低空飛行で、群れで渡る姿が観察されています。もちろん、留鳥(りゅうちょう)として、ずっとそこにいる個体もいます。どうしてそうなのかはよく分かっていません。でも、もしかしたら、今あなたが見ているヒヨドリはどこかから渡ってきた個体かもしれませんよ。

しじゅっぴークイズ：ヒヨドリが海峡を渡る時に超低空飛行をする理由は次のうちどれでしょう？

- ①空気抵抗を減らすため ②外敵から身を守るため

福島市小鳥の森（ネイチャーセンター）

《入場無料》休館日：毎週月曜日

（祝祭日の時はその翌日）

開館時間：午前8時30分～午後5時

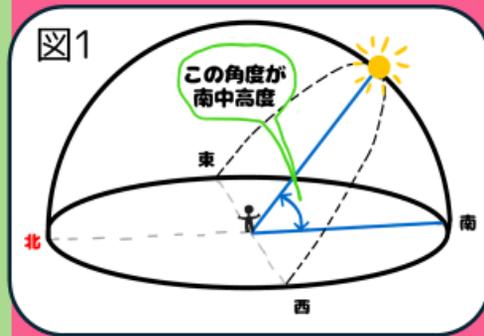
福島市小鳥の森通信「しじゅうから」2026年3月号No.475／企画・発行：福島市小鳥の森（指定管理者 NPO法人野鳥の会ふくしま）

しじゅっぴーのつぶやき

目覚めよ！光の春

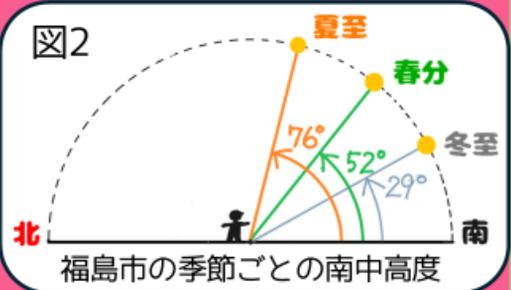


皆さんは「光の春」という言葉を聞いたことがありますか？語源はロシア語で「ベスナー・スビェータ」といいます。シベリアの長く暗い冬も、春分の頃には、光が満ちて明るくなるという意味です。では実際、どれくらい明るくなっているのでしょうか？今回は、ちょっとだけ地球のお話をしようと思います。

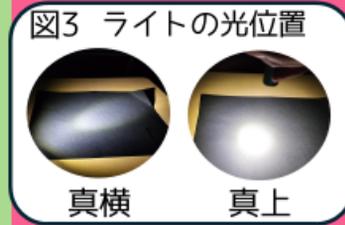


太陽は東から昇って西に沈みます。その時、太陽が南を通り、丁度真南に来た時と、地面との角度を南中高度(なんちゅうこうど)といいます(図1)。この南中高度は実は、季節によって高さが変わるのです。図2は福島市の季節ごとの南中高度です。冬至(12月)と春分(3月)では、太陽の高さが、およそ2倍もちがいますね！ではなぜ太陽の位置が高くなると、眩しくなるのでしょうか？

ライトの光(太陽の代わり)を真横からと真上から当てた場合(図3)、真横の時、光は横に伸び広がります。よって全体的にぼんやりした光になります。真上の時、光はあまり広がらず真ん中に集中し明るくなります。同じ光量でもこんなに明るさが違ってきます。太陽でもこれと同じことが起こります。つまり、より高い位置に太陽があれば、光が集中して、眩しく感じるのです。植物や生き物はこの変化を敏感に感じ取り、芽吹きや冬眠からの目覚めを促すことになります。皆さんも、光の春を感じて、ウキウキしてくださいね。



福島市の季節ごとの南中高度



最新情報はこちら



Instagram



旧Twitter



ホームページ

